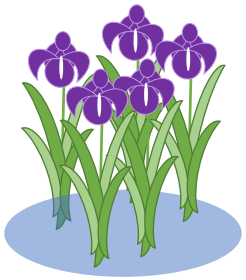
令和8年度良好な水環境保全・活用モデル事業

「茂林寺沼湿原」保全・活用100年プロジェクト
中間報告会　発表資料



2026年10月5日

館林市教育委員会



目次

Ⅰ．地域の概要（地域の特徴と活動の背景）とモデル事業の実施内容　Ｐ２

Ⅱ．現在抱えている課題・助言いただきたい内容・その他　Ｐ７



Ⅰ．地域の概要（地域の特徴と活動の背景）とモデル事業の実施内容

「茂林寺沼湿原」保全・活用100年プロジェクト

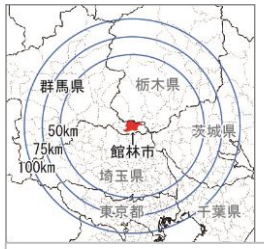
―人と湿原の関わりを結び直す（里沼の再生）―

地域の概要と今年度モデル事業の実施内容①

■活動地域の概要・特徴

茂林寺沼及び低地湿原(茂林寺沼湿原)

・指定：群馬県指定天然記念物
・所在：群馬県館林市堀工町1169番地ほか
・面積：55,972㎡（沼13,728㎡＋湿原42,244㎡）
・植生：水生植物(コウホネなど)
　　湿原植物(ノウルシ・カキツバタなど)
・特徴：日本有数の低層湿原、生物多様性の宝庫



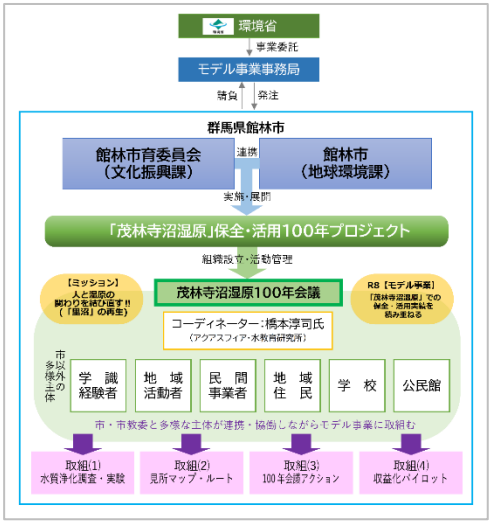




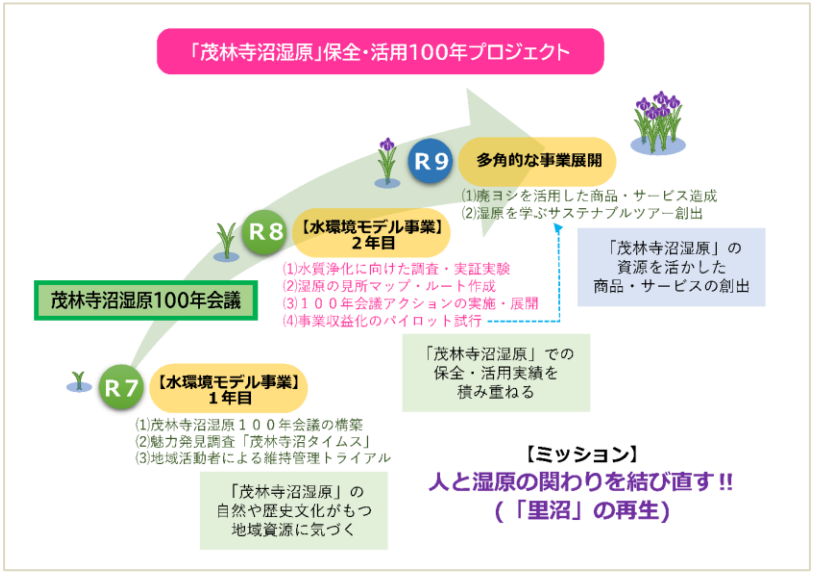


■実施体制

令和７年度に構築したプラットフォーム茂林寺沼湿原100年会議に多様主体が参画。館林市教育委員会と橋本淳司氏(アクアスフィア・水教育研究所)で全体調整を行い、取組を進めている



■現在までの主な活動内容



地域の概要と今年度モデル事業の実施内容②

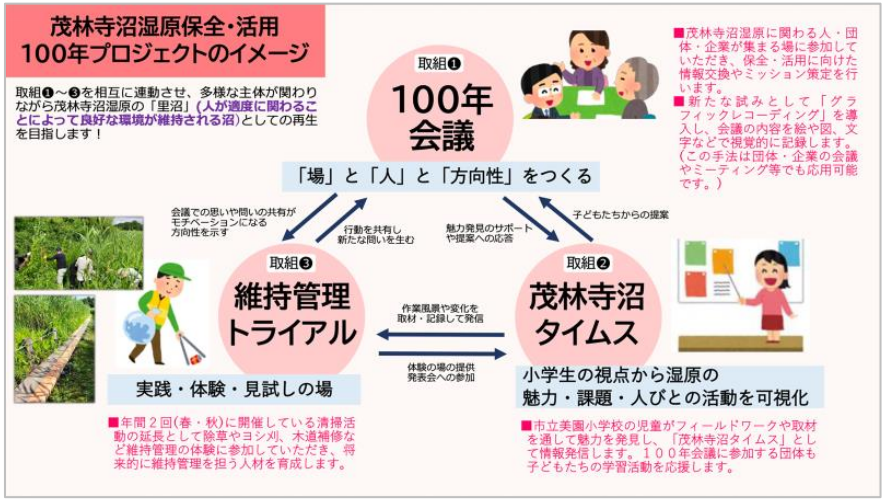
■令和７年度

「人と方向性をつくる」

取組(1)　茂林寺沼湿原100年会議の構築
取組(2)　魅力発見調査「茂林寺沼タイムス」
取組(3)　地域活動者による維持管理トライアル

行政・地域住民・学校・専門家・企業・活動団体をつなぐ「茂林寺沼湿原100年会議」を設置し、20年後の将来像と、①保全活動、②続くしくみ、③関わるきっかけ、④場を整備、⑤資源循環の5つの行動方針を整理した。



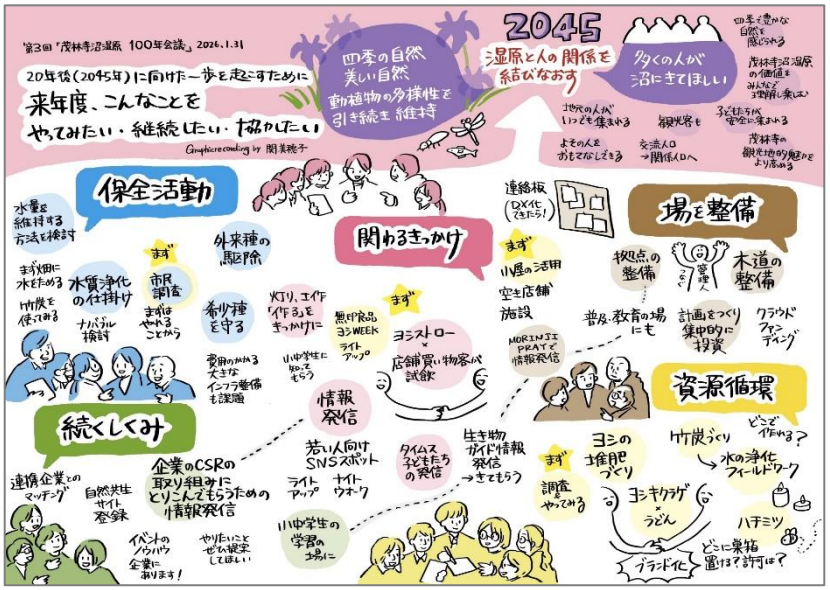


■令和８年度

「アクションを動かし、持続する仕組みに変える」

取組(1)　水質浄化に向けた調査・実証実験
取組(2)　湿原の見所マップ・ルート作成
取組(3)　100年会議アクションの実施・展開
取組(4)　事業収益化のパイロット試行

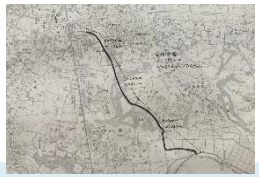
令和7年度に構築したネットワークとアクションを実際の活動につなげ、保全・活用・資源循環が持続する仕組みづくりを進めている。



地域の概要と今年度モデル事業の実施内容③

■令和８年度の主な活動





❶水環境・生態系の再生

⑴茂林寺沼湿原の水位・水質等の継続的な把握　➡群馬県立大泉高校生等の水質調査(月１回、10箇所、pH・COD等)
⑵市民による水文調査の準備＆トライアル　➡茂林寺川開削時資料の収集・整理
⑶外来植物駆除、ヨシ刈り、竹林管理等の実践　➡「シツゲンドクターズ」による活動(＊不定期)

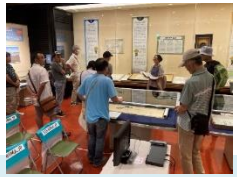




❷“守る人”を増やす仕組みづくり

⑴100年会議を活動主体同士の情報共有・成果共有の場として継続　➡8/1㈯第４回100年会議
⑵100年会議アクションの実施・展開　➡「フェスタ」「リソースアート」準備中
⑶維持管理活動を年間プログラム化し、活動を「単なる作業」ではなく学び・交流・体験を伴うプログラムとして展開　➡4/29㈷「カキツバタヘルパーズ」 6/6㈯「キショウブバスターズ」
⑷「シツゲンドクターズ」等による継続的な保全活動　➡5/16㈯第１回活動(外来種駆除・木道補修)
⑸スキルアップ講座開催による人材育成　➡4/22㈬、8/29㈯、9/12㈯の３回開催





❸湿原の価値を“見える化”し、活用につなげる

⑴四季の動植物や見どころを紹介するマップ・散策ルートづくり　➡6-7月群馬県立館林商工高校「NaviTabi」アプリ
⑵ヨシ・竹など湿原から生じる地域資源の活用実験　➡分福公民館「ぶんぶく農園」でのヨシ活用実験
⑶市内店舗(無印良品館林美園店)・事業者と連携した情報発信　➡7/25㈯-8/30㈰「茂林寺沼タイムス」展
⑷企業研修等、保全活動を体験価値へ転換する試行　➡9/26㈯「アサヒ飲料こども環境教室」
⑸館林市立資料館特別展「沼ろう！守ろう！茂林寺沼湿原」開催　➡7/18㈯-9/27㈰館林市第一資料館２階企画展示室

事業成果と今後の方針

■今年度内に目指す成果

実施計画書《令和８年度目標》

No.	項目	令和７年度（実績）	令和８年度（目標）	令和８年度（10/1現在）
1	水質浄化のための市民参加型調査の実施回数	０回	１２回	６回
2	湿原の見所マップ・ルート作成	１回	４回	１回
3	100年会議のアクション参加主体数	２１主体	２５主体	２５主体
4	市民有志による「シツゲンドクターズ」メンバー数	０人	１５人	３３人
5	湿原を活用したツアー・企業研修の実施回数	０回	２回	１回

「保全しなければならない場所」から
「地域が関わり続けることで守られる場所」への転換

❶「科学的な保全」への転換	水位・水質・植生等のデータを蓄積し、経験だけに依存しない維持管理方法を検討する
❷「活動」の定着	年間を通じて地域住民・活動団体・学校・企業等が湿原に関われる活動メニューを確立する
❸「関わりしろ」の拡大	保全作業、自然観察、教育、観光、企業研修、資源活用など、異なる目的を持つ人が参加できる入口を増やす
❹「保全と活用の循環」の実証	ヨシ・竹等の活用、体験プログラム等を通じて、湿原を守る活動が新しい価値や収益を生み、その一部が保全へ還元されるモデルを試行する

■中長期的な目標

茂林寺沼湿原２０年後(2045年)のビジョン



《2045年頃》

➡100年会議で描いた「20年後の茂林寺沼湿原」の実現

□湿原環境が安定的に維持・再生されている
□行政だけでなく、市民・学校・企業・専門家が継続的に関わっている
□保全活動が地域の日常的な活動として定着している
□湿原を教育・観光・企業研修等に活用する仕組みが成立している
□ヨシ・竹等の地域資源が循環利用されている

《さらに100年先へ》

➡「守るために使い、使うことで守られる湿原」へ

□行政予算や補助事業のみに依存せず
自然環境の再生 → 人が関わる
→ 新しい価値を生む → その価値を保全に還元する
という自走型の「里沼」モデルの確立を目指す。

Ⅱ. 現在抱えている課題・助言いただきたい内容・その他

現在抱えている課題①

■令和７年度 成果報告会時の課題

No.	課題	内容	令和８年度の取組状況
1	維持管理活動の継続性	「作業特化型」と「体験・普及型」に活動を分け、いずれもプレイヤーが主体となった運営・開催が継続し、常に人間が茂林寺沼湿原に関わる状況を維持すること	❖作業＋ワークショップを組み合わせた体験型の「維持管理トライアル」と、作業中心の「シツゲンドクターズ」を分化させた ❖湿原の状況・変化に応じた年間プログラムを作成・公表し、通年で人が関わるための機会創出に努めた
2	教育活動の充実・強化	湿原の貴重性ＰＲや活動参画者を獲得するための教育・普及活動が、「学び」や「見試し」のフィールドとして湿原周辺で定期的に実施・展開されていくこと	❖学校や公民館等と連動したフィールドワークや講座などの実施を維持し、それぞれのニーズに応じた教育・普及支援活動をおこなった ❖市民レベルでの水質調査を開始し、高校生や地域住民が参加しながら湿原の環境を保全するとともに、データもインターネットで公開している
3	活動資金の確保	廃ヨシ活用商品や体験活動ツアー造成による収益化のほか、ふるさと納税や企業版ふるさと納税などの寄付、将来的な自然共生サイト登録による資金調達等で活動資金が確保できること	❖収益化に向けた企業研修(パイロット版)を１回実施し、実施に当たっての課題や企業側のニーズ等を把握・調査することができた ❖自然共生サイト認定を目指し、先進事例を視察するとともに、茂林寺沼湿原で必要な基礎データ等や申請事務手続きなどを調査した

現在抱えている課題②・助言いただきたい内容

■現在の課題

No.	課題	助言いただきたい内容
1	自然共生サイト認定を契機とした継続的なモニタリング・管理体制の構築	❖自然共生サイト申請に必要となる生物調査リストの作成について、どのようなリストやモニタリングが必要か？ ➔R８.３月三橋先生より： トンボ相、鳥類、魚類環境DNA、植物など ❖リスト作成やモニタリング調査にあたって予算・人員が限られている。持続可能な調査手法は？
2	自然再生ツアーや企業研修等の受入れを担う民間プレイヤーとの連携	❖次年度の「観光モデル事業」への展開も見据えて、自然再生ツアーや企業研修等の受け入れを担う民間プレイヤーの存在が重要 ❖市内事業者はあるが、自然再生ツアーや環境研修の担い手となるほど成熟していないことから、過去の自治体認定団体等における取組事例を教えていただきたい。
3	100年プロジェクトの最終形の運営主体	❖行政予算だけに依存しない民間・市民・企業との協働による自走型運営モデルの確立を目指して、「100年プロジェクト」又は「シツゲンドクターズ」NPO化による運営も検討している。 ❖自走化できている先進事例があれば、ご教示いただきたい。

その他

茂林寺沼湿原　保全・活用
100年プロジェクト



館林市立資料館Ｘ
[館林市文化振興課]

100年プロジェクト
活動履歴サイト

―人と湿原の関わりを **結** び直す（里沼の再生）―